

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

被告人Aの弁護人柏木義憲、同佐藤利雄の上告趣意は、憲法三一条違反をいう点をも含め、実質はすべて事実誤認、単なる法令違反の主張であり、被告人Bの弁護人秋山昭八、同刀根国郎の上告趣意は、憲法二二条、三一条、三七条違反をいう点をも含め、実質はすべて事実誤認、単なる法令違反の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらぬ。

なお、本件のように、競馬の騎手が、勝馬投票をしようとする者に対し、特定の競走に関して、自己が騎乗して出走する予定の競走馬の体調、勝敗の予想等の情報を提供し、その対価として利益の供与を受けたときは、社会通念上その競走の公正でないしこれに対する社会の信頼を害するものというべきであつて、競馬法三二条の二にいう「その競走に関して賄賂を収受し」た場合にあたるとした原判断は、正当である。

よつて、刑訴法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五九年三月一三日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	木	下	忠	良
裁判官	鹽	野	宜	慶
裁判官	宮	崎	梧	一
裁判官	大	橋		進
裁判官	牧		圭	次